

令和2年度 学力向上プラン

学校名 中央区立有馬小学校

学校の教育目標

自ら学ぶ子・思いやりのある子・心とからだの健康な子

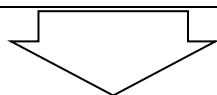
学校経営方針（確かな学力向上にかかわる内容）

- ①基礎的・基本的な「知識及び技能」の習得と「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」をバランス良く育成し、学力の定着を目指す。
- ・算数習熟度別少人数指導の充実
 - ・理科の実験・観察を基にした体験的な学びの充実
 - ・個に応じた指導の充実
- ②「主体的・対話的で深い学び」の実現を図る。
- ・学び合いのある授業づくり
 - ・有馬スタイルの確立
 - ・言語活動の充実

令和元年度「学習力サポートテスト」「東京都学力向上を図るための調査」「全国学力・学習状況調査」の結果分析や、日常の学習の様子等から見られる課題及び要因

	児童・生徒の学力の課題	主な要因
国語	「読むこと」に関しては、多くの児童が物語や説明的な文章の内容を理解し、読み取ることができている。「書くこと」「言語についての知識・理解・技能」については、情報を読み取り文章を整理して書くことや漢字や慣用句など言語に関する知識に課題がある。	日常生活において、多くの言語に触れる機会が少ないことや、知っている言葉を使って書く習慣が身に付いていないことも要因の一つと考えられる。
算数	「数量や図形についての技能」に関しては、多くの児童が正確に計算することはできている。「数学的な考え方」に関しては、情報を読み取り、それを根拠として理由を説明することに課題がある。	課題解決に向けて、既習事項を活用することが難しく、自分の考えを発表したり全体で共有したりする時間が少ないことが要因の一つと考えられる。
社会	「知識・理解」に関しては、地図記号や地図の見方等、社会の基本的な用語を理解することができるようになってきている。「観察・資料活用の技能」に関しては、グラフ等の資料を関連づけて読み取ることに課題がある。	地図や資料、グラフ等を日常的に活用する場面が少ないことや、基本的な知識が児童の日常生活と結びついていないことが要因と考えられる。
理科	「知識・理解」に関しては、自然事象についての知識や用語の理解はできているが、それぞれを関連づけて考えることに課題がある。「観察・実験の技能」に関しては、動植物や自然事象の観察をもとに思考するところに課題がある。	自然が身近に感じるものが少なく、実感を伴う学習が難しいことや日常生活と結び付けて活用する時間が少ないことが要因の一つと考えられる。
体育	「ソフトボール投げ」や「握力」の記録は、体育朝会で、投球フォームを身に付ける活動に取り組んだり、授業で繰り返し練習したりしたことで、昨年度に比べ全体的に記録が伸びてきた。「20mシャトルラン」「50m走」の記録は、日常的な運動経験の個人差も大きい傾向にあり課題がある。	個々の目標値を伝えることで、記録の向上に繋がることもあったが、長い距離を走る経験を継続的に行われていないことは、要因の一つと考えられる。

学力向上に向けた視点	年度末までの目標及び指標
①学力基盤	基礎的・基本的な「知識及び技能」の習得と「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の育成に努め、全ての児童の学力を定着させる。定着度の的確な把握と共に、放課後等の「ステップアップ教室」を活用し、学力の定着を図る。規律正しい授業が展開できるよう児童に規範意識をもたせる。
②授業改善	各教科・領域の「見方・考え方」を理解し、「主体的・対話的で深い学び」を通して、学び合いを意図的に設定した授業にするために、指導計画に基づいて計画通りに実施する。
③教員の指導力	全教員が年3回、略案を元にした授業を公開する。また、毎月1回OJTを実施し、授業改善を図る。外国語活動においては、ALTを効果的に活用して、担任全員が主体となる授業を行う。
④家庭との連携	年2回の児童・保護者による学校評価アンケートを実施し、教育活動の改善を図る。学校公開、保護者会、学校便り、ホームページ等を活用し、積極的に情報を発信し教育活動の理解を図る。
⑤体力向上	マイスクールスポーツについて、全児童が休み時間や朝の時間に一定期間の共通した取組を行い、特色ある教育の推進を図るとともに、全児童が長期休業中に、「体力アップの運動」に取り組み、体力向上へ繋げていく。



【目標達成のための具体的な取組内容】

①学力基盤	
取組Ⅰ	<p>「有馬スタイルの確立」を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度までの校内研究を生かした学級作りと、主体的・対話的で深い学びを通じた授業作りを組み合わせたスタイルを作っていく。 ・自ら学び考え、主体的に判断、行動し、よりよく問題を解決する体験的な学習を効果的に取り入れ、学習したことを発表する機会を計画的に設定する。
取組Ⅱ	<p>基礎的・基本的な学力の徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> ・算数の基礎・基本を身に付けるために、毎週水曜日の放課後、個人面談時、夏休みに補習教室「ステップアップ教室」を実施する。 ・学習力サポートテスト等の結果を基に、平均値に到達していない児童については、ステップアップ教室の参加を促すと共に、苦手な領域である「数量関係」や「図形」の復習も行っていく。
取組Ⅲ	<p>ルールやマナーを遵守する態度の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「有馬のよい子」や学習規律「有馬スタンダード」の徹底を図り、言語環境を整えることで、学習意欲や規範意識を向上させる。

②授業改善	
取組Ⅰ	<p>PDCA サイクルに留意した指導の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常的な学習状況や各種調査の結果を踏まえ、児童の課題に応じた指導の工夫を行う。 ・各教科等の指導計画及び評価規準の作成、目標に準拠した適正な学習評価を実施していく。
取組Ⅱ	<p>主体的・対話的で深い学びを通しての授業づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教科等の授業の中で、「学び合い」の時間を位置付け、発表、対話、討論、話し合い等を意図的・計画的に発達段階に応じて取り入れる。
取組Ⅲ	<p>基礎的・基本的な学力の定着の徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> ・算数科では、1・2年生は担任と都の講師学級数+1グループ、3～6年生は担任と少人数指導、算数区講師2名の学級数+3グループとし、全学年習熟度別少人数指導を行う。

③教員の指導力	
取組Ⅰ	<p>校内OJT、校内研究・研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有馬スタンダード（学習規律）、有馬スタイル（各教科の単元計画）を生かしたOJTを実施し、分かる授業づくり等指導力の向上を図る。 ・月1回の研究日を設け、学年及び分科会で指導案検討、模擬授業などを行い、授業改善を図ると共に、研究主題に迫る。 ・主任教諭が若手教諭を指導・助言をする授業公開を、年間を通して計画的に行い、授業力の向上を図る。
取組Ⅱ	<p>研究授業の公開や外部研究会・研究発表会への参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年1回以上、全教員が授業公開や研究会への積極的な参加を推進し、教科に対する専門性を高める。
取組Ⅲ	<p>担任主体による外国語活動の授業力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語研修会、小学校英語集中講座、校内研修等を通して、さらに担任主体の授業力を高める。

④家庭との連携	
取組Ⅰ	<p>家庭への情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年便りや個人面談・保護者会等を活用し、積極的に情報発信を行う。 ・学習力サポートテストや体力調査等の分析結果を伝え、家庭と協力して基礎学習の習得や体力の向上を図る。
取組Ⅱ	<p>学びの習慣化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校からは毎日、全学年が音読や漢字、計算等の家庭学習を提示し、提出されたものは、必ず担任が確認する。 ・保護者会等で、目指す児童像を示すとともに、学習の定着に向けた家庭学習への取組についての理解を求める。
取組Ⅲ	<p>学校アンケートの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校公開時のアンケートによる授業評価、年2回の児童・保護者による学校評価アンケートを実施する。

	・保護者からの要望・改善点等を早期解決し、信頼関係を構築する。
⑤体力向上	
取組Ⅰ	<p>マイスクールスポーツの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内持久走大会（有馬ラソン大会）に向けて、体育の授業及び朝の時間や休み時間に時間走を全校で取り組む。 ・縄跳びカードを全校共通で年間を通して取り組む。
取組Ⅱ	<p>体力アップの運動カードの取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長期休業中に、全校共通で「柔軟性を高める運動」、「体幹を鍛える運動」、短縄跳び、持久走の4項目のカードを使って運動に日常的に取り組む。
取組Ⅲ	<p>体育授業の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体力調査の結果をもとに、体力向上に関する運動例から各学級に合わせて授業で継続的に取り組む。